

いすゞ自動車(株)

ポスト新長期規制適合 小型車(エルフ)、中型車(フォワード) 新長期規制適合

※新長期規制適合・中型車(フォワード)の一部(初期型)の車両は、新短期規制適合・中型車(フォワード)と同じ操作(メーターパネル)となります。次々頁の「新短期規制適合 小型車(エルフ)、中型車(フォワード)」をご覧ください。

DPDの取扱い方法について

DPDは排気ガス中のPM(粒子状物質)を浄化するものです。

DPDフィルターにPMを捕集し、一定量堆積すると自動的にフィルターを再生(PMを燃焼)させます。

DPDはDPDフィルター内にPM(粒子状物質)が一定量堆積すると、「DPD自動再生中」表示灯(緑)が点灯(マルチインジケーター付車は同時にメンテナンス警告灯(橙)が点灯)し自動的に再生(PMを燃焼)を行います。走行条件によっては再生が完了しない場合があります。この場合にマルチインジケーター付車は「DPD手動再生」表示灯(橙)が、マルチディスプレイ付車は「DPDスイッチ押しして下さい」表示(橙)が点滅(毎秒約1回)し、同時に音声警報が鳴ります。DPDの手動再生が必要になりますので、運行が終了したときなど駐車する際に手動再生操作を行ってください。

なお、点滅(毎秒約1回)した状態で走行を続けると速い点滅(毎秒約3回)に変わり、同時に音声警報が繰り返し鳴ります。この状態で走行を続けるとDPDが故障するおそれがありますので、ただちに安全な場所に停車し、再生操作を行ってください。

※音声警報がない車両もあります。

マルチインジケーター付車



DPDが自動再生中であることをお知らせしています。DPDスイッチの操作は必要ありません。



DPDの手動再生が必要です。手動再生手順に従って再生を行ってください。

マルチディスプレイ付車



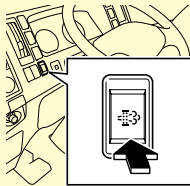
DPDが自動再生中であることをお知らせしています。DPDスイッチの操作は必要ありません。



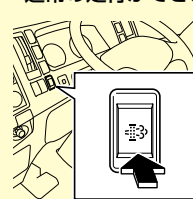
DPDの手動再生が必要です。手動再生手順に従って再生を行ってください。

● 手動再生手順

1. 草木や枯れ草、紙くすなど、燃えやすいものがない安全な場所に停車してください。
2. シフトレバーを「N」位置にし、確実にパーキングブレーキを効かせてください。
3. エンジンをアイドリング状態にしてください。アイドリングコントロールノブによってエンジン回転を上げているときは、左いっぱいに戻し、エンジン回転を下げておきます。アイドリングストップ付車はアイドリングストップスイッチを、ecostop付車はecostopキャンセルスイッチを操作し、非作動状態にします。
4. PTO装着車は、PTOの作動を停止してください。PTOスイッチおよび外部アクセルコントロールを戻してください。
5. DPDスイッチを押します。
6. 「DPD手動再生」表示灯(橙)が点滅から点灯に変わり、エンジン回転が自動的に上がって再生が始まります。再生中は、車から離れないでください。再生は、通常15～20分程度で終了します。
7. 「DPD手動再生」表示灯(橙)が消灯すると再生は終了です。通常の走行ができます。



マルチインジケーター付車



マルチディスプレイ付車



● 手動再生の中断

やむをえず再生を中断して走行したい場合は、DPDスイッチをもう一度押してください。

マルチインジケーター付車では「DPD手動再生」表示灯(橙)が、マルチディスプレイ付車では「DPDスイッチ押しして下さい」表示(橙)が点滅に変わり、同時に音声警報が鳴ります。この状態から走行することができますが、DPDの再生は中断したままです。できるだけ早く停車して再度DPDスイッチを押し、手動再生が終了するまでお待ちください。

※音声警報がない車両もあります。

※手動再生を行わずに走行を続け、PM(すす)が溜まり過ぎると、エンジン制御警告灯(チェックエンジン・ランプ)が点灯し、エンジンの出力制限を行います。

お近くの「いすゞ販売会社」で点検・整備を受けてください。



アドバイス

- 自動再生は、エンジンを止めると中断されます。できるだけ、自動再生が終了するまで(ランプが消えるまで)、エンジンを切らないようにすると効率的に再生が行えます。
- 手動再生中は、できるだけ車両を動かさないでください。走行すると、手動再生が中断します。
- ある程度DPDにPM(すす)が溜まると、任意に手動再生を行うことができます。(任意手動再生) DPDスイッチをDPD表示灯が点灯するまで(長)押します。DPD表示灯(橙色)が、点滅すれば手動再生が可能です。再度DPDスイッチを押してください。エンジンが暖まっている時の方が、再生時間が短くなります。運行終了後等の空き時間に行くと効率的です。

※お車によって異なる場合があります。詳しい取扱い方法については車載の「取扱説明書」をご覧ください。

いすゞ自動車(株)

ポスト新長期規制適合
新長期規制適合

大型車(ギガ)

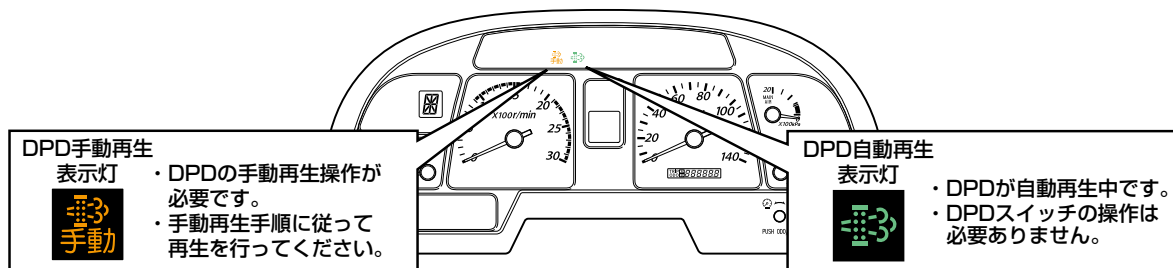
DPDの取扱い方法について

DPDは排気ガス中のPM(粒子状物質)を浄化するものです。

DPDフィルターにPMを捕集し、一定量堆積すると自動的にフィルターを再生(PMを燃焼)させます。

DPDはDPDフィルター内にPM(粒子状物質)が一定量堆積するとDPD自動再生表示灯(緑)が点灯し自動的に再生(PMを燃焼)を行います。走行条件によっては再生が完了しない場合があります。この場合にDPD自動再生表示灯が点滅します。メーター内のDPD自動再生表示灯が点滅したら(毎秒約1回点滅)、DPDの再生操作が必要です。運行が終了したときなど駐車する際に自動再生操作を行ってください。なお、点滅(毎秒約1回点滅)した状態で走行を続けると速い点滅(毎秒約3回点滅)に変わります。この状態で走行を続けるとDPDが故障するおそれがありますので、ただちに安全な場所に停車し、再生操作を行ってください。

※自動再生表示灯が点滅すると同時に警報音が鳴る車両があります。



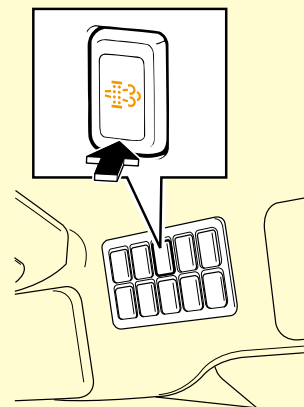
※新長期規制適合の一部の車両は、自動再生表示灯がない場合があります。

● 手動再生手順

1. 枯れ草や紙くずなど、燃えやすいものがない安全な場所に停車してください。
2. ギヤを“N”にし、確実にパーキングブレーキを効かせてください。
3. エンジンをアイドリング状態にしてください。マニュアル操作でアイドリング回転数を上げている場合は、アイドリングコントロールスイッチでエンジン回転をいっばいに下げてください。アイドリングストップ付車はアイドリングストップスイッチを“OFF”(解除)にしてください。
4. PTO装着車は、PTOの作動を停止してください。PTOスイッチおよび外部アクセルコントロールを戻してください。
5. DPDスイッチを押します。DPD自動再生表示灯が点滅から点灯に変わり、エンジン回転が自動的に上がって再生が始まります。再生中は車から離れないでください。再生は通常15～20分程度で終了します。DPD自動再生表示灯が消えたら再生終了です。通常の走行ができます。

● 手動再生の中断

やむをえず再生を中断して走行したい場合は、DPDスイッチをもう一度押してください。DPD自動再生表示灯が点滅に変わり走行することができます。この場合は再度再生が必要ですので、できるだけ早く“手動再生手順1.”からやり直してください。



※手動再生を行わずに走行を続け、PM(すす)が溜まり過ぎると、エンジン制御警告灯(チェックエンジン・ランプ)が点灯し、エンジンの出力制限を行います。
お近くの「いすゞ販売会社」で点検・整備を受けてください。



アドバイス

- 自動再生は、エンジンを止めると中断されます。できるだけ、自動再生が終了するまで(ランプが消えるまで)、エンジンを切らないようにすると効率的に再生が行えます。※「自動再生表示灯」がない車両もあります。
- 手動再生中は、できるだけ車両を動かさないでください。走行すると、手動再生が中断します。
- ある程度DPDにPM(すす)が溜まると、任意に手動再生を行うことができます。(任意手動再生)
DPDスイッチをDPD表示灯が点灯するまで(長)押します。DPD表示灯(橙色)が、点滅すれば手動再生が可能です。再度DPDスイッチを押してください。エンジンが暖まっている時の方が、再生時間が短くなります。運行終了後等の空き時間に行うと効率的です。

※お車によって異なる場合があります。詳しい取扱い方法については車載の「取扱説明書」をご覧ください。

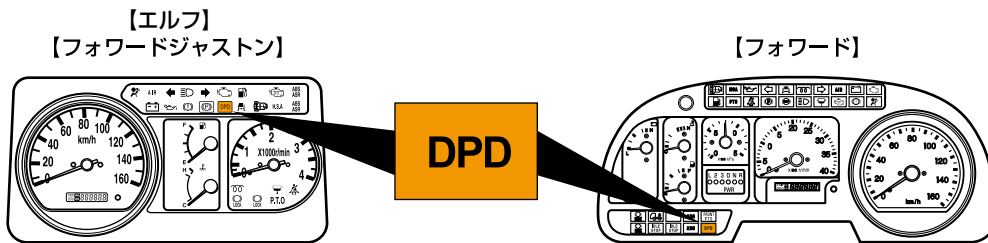
いすゞ自動車(株)

新短期規制適合 小型車(エルフ)、中型車(フォワード)

DPDの取扱い方法について

DPDは排気ガス中のPM(粒子状物質)を浄化するものです。

DPDフィルターにPMを捕集し、一定量堆積すると自動的にフィルターを再生(PMを燃焼)させます。



DPDはフィルター内にPM(粒子状物質)が一定量堆積すると自動的に再生(燃焼)を行います。走行条件によっては再生が完了しない場合があります。この時にDPDランプが点滅します。メーター内のDPDランプが点滅したら(毎秒約1回点滅)、DPDの再生操作が必要です。運行が終了したときなど駐車する際に手動再生操作を行ってください。

なお、点滅(毎秒約1回点滅)した状態で走行を続けると速い点滅(毎秒約3回点滅)に変わります。この状態のまま走行を続けるとDPDが故障するおそれがありますので、できるだけ速やかに安全な場所に停車し、再生操作を行ってください。

● 手動再生手順

1. 枯れ草や紙くずなど、燃えやすいものがない安全な場所に停車してください。
2. ギヤをニュートラルにし、確実にパーキングブレーキを作動させてください。
3. エンジンをアイドリング状態にしてください。マニュアル操作でアイドリング回転数を上げている場合は、アイドリングコントロールスイッチでエンジン回転をいっばいに下げてください。アイドリングストップ付車はアイドリングストップスイッチを「OFF(解除)」にしてください。
4. PTO装着車は、PTOの作動を停止してください。PTOスイッチおよび外部アクセルコントロールを戻してください。
5. DPDスイッチを押します。DPDランプが点滅から点灯に変わり、エンジン回転が自動的に上がって再生が始まります。再生中は車から離れないでください。再生は通常15~20分程度で終了します。DPDランプが消えたら再生終了です。通常の走行ができます。



● 手動再生の中断

やむをえず再生を中断して走行したい場合は、DPDスイッチをもう一度押してください。DPDランプが点滅に変わり走行することができます。この場合は再度再生が必要ですのでできるだけ早く、手順1.からやり直してください。

※手動再生を行わずに走行を続け、PM(すす)が溜まり過ぎると、エンジン制御警告灯(チェックエンジン・ランプ)が点灯し、エンジンの出力制限を行います。
お近くの「いすゞ販売会社」で点検・整備を受けてください。



アドバイス

- 自動再生は、エンジンを止めると中断されます。できるだけ、自動再生が終了するまで、エンジンを切らないようにすると効率的に再生が行えます。※自動再生中は、アイドリング回転数が上がる場合があります。
- 手動再生中は、できるだけ車両を動かさないでください。走行すると、手動再生が中断します。
- ある程度DPDにPM(すす)が溜まると、任意に手動再生を行うことができます。(任意手動再生)
DPDスイッチをDPD表示灯が点灯するまで(長)押します。DPD表示灯(橙色)が、点滅すれば手動再生が可能です。再度DPDスイッチを押してください。エンジンが暖まっている時の方が、再生時間が短くなります。運行終了後等の空き時間に行うと効率的です。
※車両によっては、「任意手動再生」ができない車両もあります。

※お車によって異なる場合があります。詳しい取扱い方法については車載の「取扱説明書」をご覧ください。

尿素SCRシステムの取扱い方法について

尿素SCRシステムは、排気ガス中の窒素酸化物 (NOx) を浄化するシステムです。尿素水 (AdBlue®相当) を還元剤として排気ガスの熱で加水分解し、アンモニア (NH₃) を生成します。生成したアンモニアにより窒素酸化物 (NOx) を還元させ窒素と水分に分解し浄化するシステムです。

- ・尿素SCRとは、尿素Selective Catalytic Reductionの略で、尿素を還元剤とする選択還元型触媒を意味します。
- ・AdBlue®はドイツ自動車工業会 (VDA) の登録商標です。

マルチディスプレイと警告灯について

尿素水量表示

5段階
4段階
3段階
2段階
1段階
0段階

再始動禁止中警告

品質異常
尿素水量
尿素水品質異常警告
AdBlue品質異常
尿素水補給警告
AdBlue補給
尿素水噴射異常警告
AdBlue噴射異常

- 下記の警告が表示したら、ただちに尿素水 (AdBlue®相当) を補給してください。また、再始動禁止中警告が表示して走行し続けると、尿素SCRシステムが故障します。

尿素水が少なくなると

尿素水補給警告

尿素水 (AdBlue®相当) の残量が1段階になると警告が表示します。

尿素水が空になると

再始動禁止中警告 (尿素水量)

尿素水補給警告が表示してから尿素水の補給を行わず走行し続けると、再始動禁止中警告が表示します。
この警告が表示したらエンジンの停止を行うと再始動ができません。
下記の「エンジン再始動の手順」に従い処置を行ってください。
警報音 (ピーー) が鳴り続けます

マルチディスプレイに交互に表示されます

● エンジン再始動の手順

- ① スタータースイッチを「LOCK」位置にし、尿素水 (AdBlue®相当) を5L以上補給します。
- ② 尿素水 (AdBlue®相当) を補給後、スタータースイッチを「LOCK」から「ON」位置にして、同時にマルチディスプレイの表示が消灯し、警報音「ピーー」が鳴りやむのを待ちます。
- ③ マルチディスプレイの表示と警報音「ピーー」が鳴りやまないときは、スタータースイッチを「LOCK」位置に戻し、さらに尿素水 (AdBlue®相当) を補給し、手順②からやり直します。
- ④ エンジンを始動します。

- 下記の警告が点灯して適切な処置を行わず走行し続けると尿素SCRシステムが故障します。ただちに最寄りの《いすゞ販売会社》で点検・修理を受けてください。

尿素水の品質に異常があると

尿素水品質異常警告

尿素水タンクに尿素水 (AdBlue®相当) 以外の液体 (ガソリンや灯油など) が混入したときや、水などで希釈されたときに警告が表示します。

適切な処置をせず走行し続けると

再始動禁止中警告 (品質異常)

尿素水品質異常警告が表示してから適切な処置を行わず走行し続けると、再始動禁止中警告が表示します。
この警告が表示したらエンジンの停止を行うと再始動ができません。
警報音 (ピーー) が鳴り続けます

マルチディスプレイに交互に表示されます

尿素SCRシステムに異常があると

尿素水噴射異常警告

尿素SCRシステムに異常があると、尿素水噴射異常警告が表示します。

適切な処置をせず走行し続けると

尿素水噴射異常警告

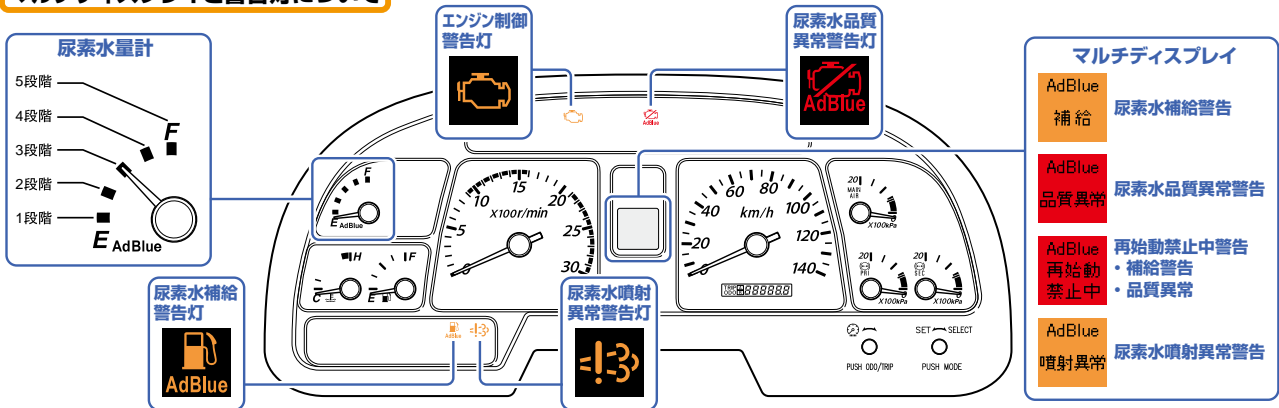
尿素水噴射異常警告が表示してから適切な処置を行わず走行し続けると、警報音が鳴り続けます。
警報音 (ピーー) が鳴り続けます

尿素SCRシステムの取扱い方法について

尿素SCRシステムは、排気ガス中の窒素酸化物 (NOx) を浄化するシステムです。尿素水 (AdBlue®相当) を還元剤として排気ガスの熱で加水分解し、アンモニア (NH₃) を生成します。生成したアンモニアにより窒素酸化物 (NOx) を還元させ窒素と水分に分解し浄化するシステムです。

- ・尿素SCRとは、尿素Selective Catalytic Reductionの略で、尿素を還元剤とする選択還元型触媒を意味します。
- ・AdBlue®はドイツ自動車工業会 (VDA) の登録商標です。

マルチディスプレイと警告灯について



- 下記の警告が表示したら、ただちに尿素水 (AdBlue®相当) を補給してください。また、再始動禁止中警告が表示して走行し続けると、尿素SCRシステムが故障します。

尿素水が少なくなると

尿素水補給警告

5段階
4段階
3段階
2段階
1段階

尿素水 (AdBlue®相当) の残量が1段階になると警告が表示します。

尿素水が空になると

再始動禁止中警告 (補給警告)

尿素水補給警告が表示してから尿素水の補給を行わず走行し続けると、再始動禁止中警告が表示します。
この警告が表示したらエンジンの停止を行うと再始動ができません。
下記の「エンジン再始動の手順」に従い処置を行ってください。
警報音(ピーーー)が鳴り続けます

●エンジン再始動の手順

- 1 スタータースイッチを「LOCK」位置にし、尿素水 (AdBlue®相当) を5L以上補給します。
- 2 尿素水 (AdBlue®相当) を補給後、スタータースイッチを「LOCK」から「ON」位置にして、同時にマルチディスプレイの表示が消灯し、警報音「ピーーー」が鳴りやむのを待ちます。
- 3 マルチディスプレイの表示と警報音「ピーーー」が鳴りやまないときは、スタータースイッチを「LOCK」位置に戻し、さらに尿素水 (AdBlue®相当) を補給し、手順②からやり直します。
- 4 エンジンを始動します。

- 下記の警告が点灯して適切な処置を行わず走行し続けると尿素SCRシステムが故障します。ただちに最寄りの《いすゞ販売会社》で点検・修理を受けてください。

尿素水の品質に異常があると

尿素水品質異常警告

尿素水タンクに尿素水 (AdBlue®相当) 以外の液体 (ガソリンや灯油など) が混入したときや、水などで希釈されたときに警告が表示します。

適切な処置をせず走行し続けると

再始動禁止中警告 (品質異常)

尿素水品質異常警告が表示してから適切な処置を行わず走行し続けると、再始動禁止中警告が表示します。
この警告が表示したらエンジンの停止を行うと再始動ができません。
警報音(ピーーー)が鳴り続けます

尿素SCRシステムに異常があると

尿素水噴射異常警告

尿素SCRシステムに異常があると、尿素水噴射異常警告が表示します。

適切な処置をせず走行し続けると

尿素水噴射異常警告

尿素水噴射異常警告が表示してから適切な処置を行わず走行し続けると、警報音が鳴り続けます。
警報音(ピーーー)が鳴り続けます

いすゞ自動車(株)

ポスト新長期規制適合
新長期規制適合
新短期規制適合

小型車(エルフ)、中型車(フォワード)、大型車(ギガ)

メンテナンスなど その他の取扱いに関するお願い

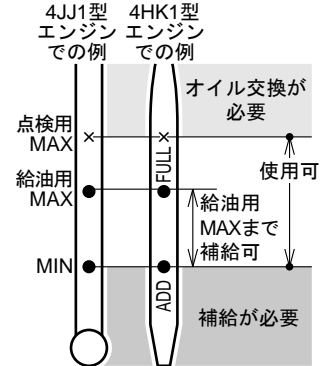
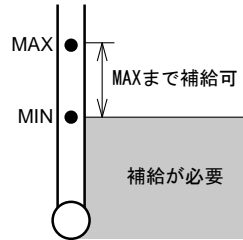
● エンジンオイル量の点検について

DPD付車は、エンジンオイル中へ燃料が徐々に混ざり、エンジンオイルが注入時よりも増える場合があります。エンジンオイル量点検時は、オイルが「点検用MAX」～「MIN」間であれば良好です。オイル量が、「点検用MAX」を越えた場合は、必ずオイル交換してください。「点検用MAX」以上にオイルがあると、エンジン故障の原因となります。また、エンジンオイル中へ燃料が徐々に混ざり、オイルが薄まりますので、必ず指定された交換期間でエンジンオイルを交換してください。

なお、ポスト新長期規制適合車のエルフ・4JJ1型エンジン、フォワード・4HK1型エンジン搭載車は、「MAX」～「MIN」間であれば良好です。

(参考)

ポスト新長期規制適合車のエルフ・4JJ1型エンジン、フォワード・4HK1型エンジンでは、DPD再生用に排気管噴射を採用して、エンジンオイル中への燃料混入を減らしています。



● エンジンオイルについて

いすゞ純正・低アッシュオイル(DPD対応オイル)「ベスコクリーン」または「ベスコクリーンスーパー」の使用をお願いしています。このエンジンオイルは、一般の低アッシュオイル「DH2(VDS-4)規格」オイルに比べて、アッシュ(灰分)の少ないエンジンオイルで、DPDフィルターへのアッシュ(灰分)の堆積を遅らせます。

● 燃料(軽油)について

低硫黄軽油(硫黄分10ppm以下)の使用をお願いしています。

粗悪な燃料、水抜き剤、その他の燃料添加剤、ガソリン、灯油、アルコール系燃料を補給したり混合して使用すると、燃料フィルター詰まり、インジェクター内の燃料潤滑部分の摺動不良になるほか、エンジンや排気ガス浄化装置(DPD)に悪影響をおよぼし、故障の原因になるおそれがあります。

● 尿素水について(尿素SCR装置付き車)

いすゞ指定の尿素水(AdBlue®相当)を使用してください。指定の尿素水(AdBlue®相当)とは、JIS(日本工業規格)AUS 32 JIS K2247またはISO(国際標準化機構)AUS 32 ISO 2241の規格に適合した尿素水(AdBlue®相当)を示します。誤って指定の尿素水(AdBlue®相当)以外のものを補給したときは、尿素SCRシステムの点検が必要です。ただちに、「いすゞ販売会社」で点検・整備を受けてください。

● DPDフィルターの点検・清掃について

排出ガス中には、微量のエンジンオイルが含まれています。このエンジンオイルの燃えカスをアッシュ(灰分)と呼びます。アッシュは、DPDの再生を繰り返すごとにフィルターに堆積して、目詰まりの原因となります。

いすゞでは、1年ごと*にDPDフィルターや差圧パイプの詰まりの点検(-点検の結果によって)清掃の実施をお願いしています。

点検清掃には、専用工具が必要となる場合がありますので、最寄りの「いすゞ販売会社」にご相談ください。

*走行距離ごとなど、年式、車型によって異なりますので、詳しくは「取扱説明書」または「メンテナンスノート」をご覧ください。

(参考)

エンジンオイルに、指定の低アッシュオイルを使用しないと、早期に目詰まりを起こします。アッシュの堆積が多いと、自動再生のインターバルが短くなったり、手動再生表示灯が頻繁に点滅したりします。

● その他の点検整備について(定期交換部品など)

1年ごとにDPDフィルターや差圧パイプの詰まりの点検(-点検の結果によって)清掃の実施をお願いする他、エアフローセンサーや排気管噴射ノズル(一部のエンジン)の点検、尿素SCR付き車では、尿素水の漏れ点検や尿素水フィルター、ドージングモジュール、NOxセンサーの定期交換などをお願いしています。

*詳しくは「取扱説明書」または「メンテナンスノート」(点検整備方式)をご覧ください。

(参考)

その他、DPDなど後処理装置の性能を維持するため、燃料系統(燃料フィルター、インジェクター等)、吸気系統(エアエレメント等)の定期的な点検・整備をお願いします。

● DPD再生時の留意点

・再生終了までの時間は、外気温度によって異なります。

・再生中は、エンジンのアイドル回転が上昇し、排気ブレーキまたは排気スロットルが作動します。排気ブレーキまたは排気スロットル作動中および解除時に作動音が発生しますが故障ではありません。

・再生時にはPM(すす)の燃焼に伴い、白煙が一時的にテールパイプから発生する場合がありますが故障ではありません。

※換気の悪い屋内での再生は行わないでください。

※排気ガス浄化機能により、排気ガスの臭いは、従来のディーゼル車とは異なります。

・手動再生は、エンジンが冷えているときより走行直後の方が早く終了します。

・手動再生中は、冷却水温が上昇することがあります。

● DPD再生の頻度

お車の使い方(走り方)が変わらないのに、次のような現象になる(変化がある)場合は、DPDフィルターにアッシュ(灰分)が堆積して詰まったか、故障の可能性があります。最寄りの「いすゞ販売会社」で点検・整備を受けてください。(ご相談ください)

・従来に比べて、自動再生のインターバルが短くなった。

・従来に比べて、手動再生表示灯が頻繁に点滅するようになった。

※同じお車でも、使い方(走り方)によって、手動再生の頻度は(毎月1回程度や毎日1回など)、大きく異なります。ご不安な場合には、最寄りの「いすゞ販売会社」に、ご相談ください。

※お車によって異なる場合があります。詳しい取扱い方法については車載の「取扱説明書」または「メンテナンスノート」をご覧ください。